



奥沢メキシコ・フィエスタでのワークショップ

かれて研究し、対抗戦によるプレゼンテーション合戦で勝敗を決するというユニークなゼミ運営をしている。奥沢メキシコ・フィエスタでの企画も、3チームで競い、商店会の代表の前でプレゼン。選ばれたのは、子どもたちにメキシコの帽子ソンプレロに飾り付けをしてもらい、それを売るPOPカードを作ってもらおうというワークショップだった。

当時3年生でチームを引っ張り、今年卒業した岡田浩太は振り返る。

「どんな層の人たちがお祭りに参加するかをインタビューする中でひらめいたのが、子どもも親も楽しめるような、遊びながら勉強にもなるエデュテイメントのプログラムでした」

フィエスタは2日間開催され、ワークショップは定員20人で1日3回行ったが、毎回満員となる大盛況だった。

「来年もぜひ」ということになったが、翌17年は会場となるビルの耐震補強工事が行われるため中止になってしまった。そんなとき、商店会から評判を聞いた世田谷区から、玉川総合支所庁舎を解体することになったため、解体直前イベントとして庁舎を自由に使った企画を考えてほしいという依頼が舞い込んだ。

いつもならゼミ内のアイデア対抗戦で決めるところだが、今回は期間が短かったため、皆で意見を出し合い一つの案を考えることになった。村松芽育（4年）は語る。

「庁舎とお別れということで、参加者が建物の中をあちこち移動するような企画で、庁舎に関連した謎解きを加味した脱出ゲームのアイデアが出て、一気にプランが固まっていきました」

ストーリーを担当したのは、4年の中西葉紀だ。



庁舎解体記念イベント
上：解体するので落書きも自由
左：庁舎をまわりながらキーワードを集めていく

世田谷区との協働による 庁舎解体記念イベント

「女の子の霊が解体工事の邪魔をする。そこで参加者が探偵として庁舎をめぐる謎を解き、霊を成仏に導くというもの。お化け屋敷の要素も入れ、ストーリーに一貫性をもたせました」

「どんなことをしたら子どもたちのツボにはまるか、経営戦略というわけではないけれど子どもたちのニーズを踏まえてアイデアを出しました。小学校の放課後ルームでアルバイトをしている経験が生きたかなと思います」（4年・小原峻）

求められる以上の成果をめざす 真剣勝負が学生を鍛える

イベントが行われたのは10月7日。中村ゼミが企画・運営した脱出ゲームには小さな子どもや大人を含めて約130人が参加した。「落書きが楽しかった」「怖くてドキドキしたなどの感想が寄せられた。

「ふだんのグループワークの中で、企画力を養い、それをすぐに行動に移せる力を培ってきたことが、まさに証明できたと思います」と村松。

今年3年生になるゼミ生たちは、先輩から学ぶことが多かったという。

「先輩の背中を見て、今度は自分たちが指示を出したり、しっかり役割分担をしていかなければと思いました」（3年・土屋琴実）

「企画だけで終わらず、実践する大切さを学びました。子どもたちからの『ありがとう』『楽しかった』という声が届みになりましたね」（3年・石田あかり）

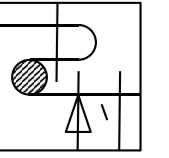


16期-19期のゼミ生が全員集合！

ゼミ生一人ひとりに着実に受け継がれていく「中村ゼミ精神」。中村教授は、ゼミ生の成長ぶりに目を細めながら、このようにしめくくってくれた。

「地域の方々と連携や企業との協働プロジェクトでは、自分たちの企画がどの程度通用するものかを、身をもって知ることでできます。受け手のニーズとがっばり四つに組んで、なおかつ、求められる以上の成果を出そうと真剣に挑む。この体験こそが学生を鍛えてくれるんですね。多様な個性をもったゼミ生が、こそぞというときに一致結束する。そんなゼミをめざしています」

次はどんな挑戦が待っているのだろうか。



Nakamura Seminar

経営学で重要なのは
理論をいかに実践するか。
グループワークで培った
企画力と団結力を存分に生かせ！



経営戦略論が専門の経営学部・中村公一教授。

昨年、中村ゼミのメンバー全員で取り組んだのが「呪われた庁舎からの脱出」というアドベンチャーゲーム。「え？経営学部でなぜ脱出ゲーム？」と思うなかれ。

経営学の理論は実践するためにある。

実践力を磨くためには、実際に行って得られる「体感」こそが大事なのだ。

ゼミの先輩からSOS

「商店会のお祭りに手を貸して！」

現代企業の経営戦略研究をテーマに、企業や業界の分析、ビジネスモデルの策定を行っているのが中村ゼミ。

「いくら経営学の理論を身につけても、それだけでは社会で役に立ちません。どういふふうに人が動けばうまくいくのか、私たちの行動を左右するのには何かを体感することが大切です」と中村教授。

3年前からゼミ生たちが体感している

のが、子どもを対象としたイベントだ。2015年、かつて中村ゼミに在籍していた先輩から「ぜひ協力して」と依頼があった。世田谷区にある東急・奥沢駅前の商店会の関係者で、「奥沢の街を盛り上げるため、奥沢メキシコ・フィエスタ」というお祭りを開催するが、若者の力がほしい」と中村教授に助けを求めてきたのだ。

このときは当日スタッフとしての協力で終わったが、翌年は企画づくりから参加することになった。

中村ゼミでは課題はすべてチームに分

